



『クリスマスマッセージ』
クリスマス 期待を超えて

司祭 マイケル D モイアード



10代の頃、両親は兄弟と私にクリスマスプレゼントを作らせました。それぞれが自分のリストを書きました。クリスマスの朝、プレゼントを開けると、私がもらった物のほとんどはリストに書いていなかった物で、がっかりしました。その失望感が嫌でした。クリスマスを祝う贈り物を通して、両親が私や兄弟たちに注いでくれた愛情に感謝の気持ちを抱きたかったからです。ある年、私は両親に「今年はリストを渡さない」と伝えました。するとその年のクリスマスは、失望に囚われることはなく感謝の気持ちを持てたので、とても幸せでした。その贈り物が両親の愛情の証だと心から感じられたからです。

福音書に記されたイエスの物語を読むと、イエスは人々が期待したメシアではなかつたことが解ります。ユダがイエスを裏切った理由もここ

にクリスマスプレゼントを作らせました。それぞれが自分のリストを書きました。クリスマスの朝、プレゼントを開けると、私がもらった物のほとんどはリストに書いていなかった物で、がっかりしました。その失望感が嫌でした。クリスマスを祝う贈り物を通して、両親が私や兄弟たちに注いでくれた愛情に感謝の気持ちを抱きたかったからです。ある年、私は両親に「今年はリストを

渡さない」と伝えました。するとその年のクリスマスは、失望に囚われることはなく感謝の気持ちを持てたので、とても幸せでした。その贈り物が両親の愛情の証だと心から感じられたからです。

洗礼によって、私たちはイエスとの関係を始めます。イエスは日々の生活の一部となり、そして私たちは一定の期待を抱きます。その期待は往々にして、他者が語ったイエス像に形作られ、私たちはイエスを厳しい審判者と期待するかもしれません。

私たちには、イエスが「再び来られて、生きる者と死んだ者を裁かれ生ける」と告白します。イエスが私たちの望むものをすべて与えてくれる方だと期待するかもしれません。イエスは言わ

にクリスマスプレゼントを作らせました。それぞれが自分のリストを書きました。クリスマスの朝、プレゼントを開けると、私がもらった物のほとんどはリストに書いていなかった物で、がっかりしました。その失望感が嫌でした。クリスマスを祝う贈り物を通して、両親が私や兄弟たちに注いでくれた愛情に感謝の気持ちを抱きたかったからです。ある年、私は両親に「今年はリストを

渡さない」と伝えました。するとその年のクリスマスは、失望に囚われることはなく感謝の気持ちを持てたので、とても幸せでした。その贈り物が両親の愛情の証だと心から感じられたからです。

洗礼によって、私たちはイエスとの関係を始めます。イエスは日々の生活の一部となり、そして私たちは一定の期待を抱きます。その期待は往々にして、他者が語ったイエス像に形作られ、私たちはイエスを厳しい審判者と期待するかもしれません。

私たちには、イエスが「再び来られて、生きる者と死んだ者を裁かれ生ける」と告白します。イエスが私たちの望むものをすべて与えてくれる方だと期待するかもしれません。イエスは言わ

れました。「信仰をもつて祈り求めるものは、何でも受けられるであろう。」（マタイ21:22）イエスは他の人々のために奇跡を行わされたので、私たちにも奇跡を行ってくださること期待するかもしれません。

福音書に記された誕生の物語を音書に記された誕生の物語を思い起しながら、日々の生

活の中で私たちのもとに来られるイエスに備え、また未来に来られるイエスに備えます。

しかし、いつたいどんなイエスに備えているのでしょうか。私たちの期待とは何でしょうか。私たちの望みとは何でしょうか。私たちにはイエスに満たして欲しい「クリスマスリスト」を作っているのでしょうか。

私たちの期待とは何でしょうか。私たちの望みとは何でしょうか。私たちにはイエスに満たして欲しい「クリスマスリスト」を作っています。

もしイエスが私たちの期待に応えなかつたら、私たちは失望するでしょうか。イエスが私たちの人生においてどのようなお方であるかを知らずに、どうして感謝できるのでしょうか。リストを作らずに、どうしてイエスの到来に備えられるのでしょうか。

福音書に記されたイエスの物語を読むと、イエスは人々が期待したメシアではなく、「再び来られて、生きる」と告白します。イエスが私たちの望むものをすべて与えてくれる方だと期待するかもしれません。イエスは言わ

れますように。

私が最も愛するクリスマス

（聖オルバン教会牧師）

よこそ東京教区へ！

主教 武藤 謙一

広報委員会から「ようこそ東京教区へ！」と



いう内容で原稿を依頼されて、改めて私は東京教区内に住むようになったのだ、と自覚させられました。今年の4月から聖公会神学院校長として働くかせていただき、時おり東京教区内の教会で主礼拝にも出させていただいています。広報委員からの原稿依頼内容に沿つて書かせていただきます。

・自己紹介

私は1954年11月清里に生まれました。両親がキープ協会（清里農村センター）の聖路加診療所で働いていましたので、清里聖アンデレ教会の近くにあった職員住宅で生活し、高校卒業まで清里にいました。

当時、清里聖アンデレ教会と長坂聖マリヤ教会には中高生が多くいて、毎年、冬休みと春休みには、自分たちで計画した2泊3日の修養会を清里で行い、ガリ版で文集を作つてたことは楽しい思い出の一つです。

聖マーガレット教会の植松功さんもその仲間の一人です。大学生時代は林間聖バルナバ教会でしたが、青年たちが大勢いて、土曜日の夕方から

教会に泊まり、日曜日の夕の礼拝が終わってから帰つたものです。大学を卒業して清里に戻りましたが、しばらくして聖職になりたいと思い、牧師、両親に話し、聖職候補生になりました。大学時代にも聖職になることを全く考えなかつたわけではありませんでした。自分が長坂で行われておりました。大学時代に教役者会が長坂で行われており、何の用事でそこに私が行つたのか忘れましたが、会館を訪ねました。そ

の時の甲府、長坂、清里の3人の聖職が一緒にいるその様子が、うまく表現できませんが、私の眼には特別な空間のように映つたのです。その光景を見て、私もその中にいたと強く思つたことが、一つのきっかけでした。

聖公会神学院を卒業してからは、千葉復活教会、市川聖マリヤ教会、清水聖ヤコブ教会、銚子諸聖徒教会、小田原聖十字教会、清里聖アンデレ教会、沼津聖ヨハネ教会で働くかせてもらいました。どこの教会でも私も家族も本当に楽しく働き、生活させてもらいました。どこの教会でも私も

返ると失敗したこと、足りなかつたこと、思い出しても恥ずかしく思うこともたくさんあり、信徒の皆さんには迷惑をかけたに違ないのですが、信徒の皆さんや同僚者に助けられ、育てられたと実感しています。

2012年7月に行われた九州教区臨時教区会で主教に選出され、12月1日に主教按手、翌年4月から今年3月まで教区主教として12年間働かせていただきました。自分のような者が主教に選出されるとは思つていませんでした。畏れと不安でいっぱいでした。しかもそれまでご縁の一杯でした。しかもそれまでご縁のなかつた九州教区で働くことになつたのですから、神様のなさることは人の想いを超えてます。九州の各地を自動車で移動しながら、「私たちは九州にいるなんて本当に不思議だね」と妻とよく話したものでした。九州教区でも2016年の九州地震、教区婦人会解散など様々なることがあり、また司祭の時以上に会議や出張も多くなり、時間に追われるよう日々でしたが、教区内の教会を巡回し、信徒の皆さんと聖餐式を上げ、交わることで力をいただいています。信徒、教役者の皆さんのお祈りと協力に支えられていました。もちろん、今振り

・聖公会神学院のこと

聖公会神学院に来て半年が経ちましたが、恵まれた環境のなかで学生、教職員と共に過ごす毎日を本当にありがとうございました。私が入学したのは1978年ですが、聖公会神学院が大切にしている礼拝と学びと共同生活は、今も変わることなく大切なものとして守られています。礼拝に関しては、学生たちは30分前にはチャペルで準備し沈黙のときを守つており、わたしが学生だったときよりも真面目ですし、学習に關しても同じように感じます。共同生活に關しては、学生間の多様な関係のなかでの葛藤、衝突、関係回復などを通しての自己理解や他者理解を深めるという点では、学生数が少ないことは残念に思います。

また教育面では、「神の宣教」に責任をもつて共に仕える主体となること、また多様なミニストリーの現場で、人々や出来事との出会いを通して体験的な学びである実習が大切にされており、更に現在は日曜日の教会実習も行われており、学生たちは決められた教会で聖職や信徒との交わりを通して多くの気づきを与えられています。

聖職者の不足は日本聖公会全体の

課題の一つです。一人の聖職は複数の教会を担当するのが当たります。ようになり、関連施設の働きに加えて教区や管区の役割も担い、誰もが多忙になっています。信徒の皆さんのが協力と働きがなければ宣教・牧会の働きを十分に果たすことが出来にくくなっています。コロナ禍以降、聖公会神学院では、オンラインによる「特任聖職特別コース」と「信徒の奉仕召命コース」を開講しています。ただ単にキリスト教や聖書について学びたいということではなく、教会の奉仕者として働く信徒を対象とした講座です。今年度は13名の方々が学んでおられます。また現役聖職の学びも聖公会神学院の働きの一つであり、校友会の協力を得ながら実施されています。昨年からは「説教セミナー」、非暴力対話研修、研究発表会などが行われています。ご自分の教会の聖職が参加できるように信徒の皆さんからお勧めし、また協力くださることを願っています。

年は19回目となりました。さらに来年度は「エキュメニズム」の授業を共同講座として、両神学校の学生が同じ授業を受け、互いに学ぶことを計画しています。昨年度は神学生がフィリピンの聖アンデレ神学校で過ごすことができましたが、今後もウイリアムス神学館や大韓聖公会の神学校などアジアの神学校との交流も実現できたらと願っています。

今年10月にはオープン・カレッジを開催し、公開授業、校内ツアー、礼拝を参加者の皆さんと一緒に一緒にしました。今後も皆さんに聖公会神学院を知つていただき、支援していただける機会を設けたいと思つています。これからも聖公会神学院のためにお祈りとお支えをお願いいたします。

・説教について

課題の一つです。一人の聖職は複数の教会を担当するのが当たりますのようになり、関連施設の働きに加えて教区や管区の役割も担い、誰もが多忙になっています。信徒の皆さんとの協力と働きがなければ宣教・牧会の働きを十分に果たすことが出来にくくなっています。コロナ禍以降、聖公会神学院では、オンラインによる「特任聖職特別コース」と「信徒の奉仕召命コース」を開講しています。ただ単にキリスト教や聖書について学びたいということではなく、教会の奉仕者として働く信徒を対象とした講座です。今年度は13名の方々が学んでおられます。また現役聖職の学びも聖公会神学院の働きの一つであり、校友会の協力を得ながら実施されています。昨年からは「説

年は19回目となりました。さらに来年度は「エキュメニズム」の授業を共同講座として、両神学校の学生が同じ授業を受け、互いに学ぶことを計画しています。昨年度は神学生がフィリピンの聖アンデレ神学校で過ごすことができましたが、今後もウイリアムス神学館や大韓聖公会の神学校などアジアの神学校との交流も実現できたらと願っています。

今年10月にはオープン・カレッジを開催し、公開授業、校内ツアーや、礼拝を参加者の皆さんとご一緒にしました。今後も皆さんに聖公会神学院を知っていたとき、支援していただける機会を設けたいと思つてします。これからも聖公会神学院のためにお祈りとお支えをお願いいたします。

・クリスマスを迎えて

その内容も変わってきます。ですか
ら、わたしは、聞き手が誰であるか
は、いつも気にしています。礼拝と
宣教・牧会がつながつていて、
説教もまた牧会とつながつていて
いうことです。牧師時代には、信徒
の方々の状況が理解できていまし
たが、主教になつたばかりのときには、
教会の信徒の皆さんのこと
巡杖する教会の信徒の皆さんのこと
がよくわからず、説教をしなければ
ならず、戸惑いを感じましたが、次
第に、各教会の皆さんのこと分かる
ようになると、その不安もなくなつ
てきました。4月以降、時々東京教
区の教会から主日礼拝の司式・説教
を頼まれることがあります。その
教会の様子、信徒の皆さんのことが
分からぬまま説教することに不安
を感じています。今年の7月に聖公
会神学院で行つた説教セミナーに参
加して、説教準備がいかに不十分
だったかを改めて反省させられまし
た。今は九州教区にいた時と比べる
と準備のため時間が取れることはあ
りがたいのですが、説教が良くなつ
ているかどうかは…。

て、何がどうかは…。

その内容も変わってきます。ですか
ら、わたしは、聞き手が誰であるか
は、いつも気にしています。礼拝と
宣教・牧会がつながつていて、
説教もまた牧会とつながつていて
いうことです。牧師時代には、信徒
の方々の状況が理解できていまし
たが、主教になつたばかりのときには、
教会の信徒の皆さんのこと
巡杖する教会の信徒の皆さんのこと
がよくわからず、説教をしなければ
ならず、戸惑いを感じましたが、次
第に、各教会の皆さんのこと分かる
ようになると、その不安もなくなつ
てきました。4月以降、時々東京教
区の教会から主日礼拝の司式・説教
を頼まれることがあります。その
教会の様子、信徒の皆さんのことが
分からぬまま説教することに不安
を感じています。今年の7月に聖公
会神学院で行つた説教セミナーに参
加して、説教準備がいかに不十分
だったかを改めて反省させられまし
た。今は九州教区にいた時と比べる
と準備のため時間が取れることはあ
りがたいのですが、説教が良くなつ
ているかどうかは…。

主イエス・キリストのご降誕を

も世界の各地で戦争・紛争が終わることはありませんでした。殊にパスクチナ、ガザ地区では建物の80パセント以上が破壊され、見渡す限り瓦礫の山とのことです。6万2千以上の尊い命が犠牲となり、そのには子供たちも多く含まれています。あたかも力が正義というよう状況が続いており、不寛容と分断強まり、憎しみの連鎖が断たれることがありません。それはいじめや少年の自殺件数が過去最大だとい日本においても同じようなことがえるのではないでしようか。

主イエスのご降誕を祝うとき、の危険にさらされ、生きることが難な人たちが、生きる希望を見出ることができますように。そして、私たち一人ひとりが人々に愛と喜びをもたらす平和の器として用いられますうにと祈らずにおられません。

「闇の中を歩んでいた民は大いなるを見た。

死の陰の地に住んでいた者たちの上光が輝いた。」（イザヤ9章1節）

主イエス・キリストのご降誕をからお慶び申し上げます。

聖マーガレット教会のユース・プログラム

司祭 塚田 重太郎

学生や高校生でも来られ

るようになると考へたからです。

聖マーガレット教会のユース・プログラムは、2018年1月から、ユース聖餐式として始まりました。

私はスコットランドから帰つてくる直前に、イングランドで聖公会が教会の成長と衰退について行つた調査結果(From Anecdote to Evidence: Findings from the Church Growth Research Programme 2011-2013)を見つけて、目を通しました。そこには、20代まで教会生活を続けた者はその後も教会生活を続けるけれども、20歳までに教会を離れた人はほとんど戻つて来ないと書かれています。

2017年に聖マーガレット教会の牧師になつた当初から、私は、教会の中に10代から20代の若者たちのための居場所を作り、イエス様が託された神の国の民として育てることが、消滅の危機に瀕する教会が生き残るために、絶対不可欠なことだと考へていました。

毎月第2・第4・第5日曜日に行うユース聖餐式の開始時間を、午後5時という遅い時間に設定し

たのには、部活のある中学生や高校生でも来られる

ノに合わせて歌い、大きなパンを割いて食べ、美味しいぶどう

ジユースを飲むユース聖餐式は、新しい人にも親しみやすい礼拝となつたと思いま

また、ユース聖餐式では、信仰を日々の生活に結びつけるための、小グループに分かれて共に語り合う時間と、互いのために祈り合う時間を大切にしてきました。

当初、ユース聖餐式の参加者は中学生から大学生までの10人から15人くらいで、信徒の子どもたちが中心でしたが、次第に、他教会、他教団、さらに国も越えて、若者たちが参加してくれるようになりました。

コロナ禍の前には、毎回、20人から25人の参加者が集うプログラムに成長したユース聖餐式ですが、開始から約6年後の2024年の

春、これを閉じることを決断しました。

6年間に渡つてユース聖餐式を行なつてきた中で、大きな課題が明らかになりました。それは、洗礼を受けてはいないけれども、ユースの核として活動しているメンバーが、陪餐のたびに疎外されるということでした。

ユース聖餐式が終わるたびに、「このままでは、若い世代への宣教と育成を目的としたユース礼拝のあり方として、相応しくないのではないか」と思ふようになり、祈りながら新たな道を探索しました。

こうして2024年5月12日の日曜日から、ユース聖餐式は、アガペー・ミールに道を譲ることになつたのです。

ユース聖餐式とアガペー・ミールとの間には、大きな違いがいくつもあります。まず、ユース聖餐式をアガペー・ミールに置き換えるという決断に導いた最大の要因は、アガペー・ミールであれば洗

礼を受けているか受けていなか
に関わりなく、参加者全員が、一緒に食べることができるという点でした。

そして、もう一つの大きな違いは、聖餐式であれば司式は司祭しかできませんが、アガペー・ミールであれば、参加者の誰でもリードすることができるということです。

最後に触れておかねばならない

ことです、ユースのプログラムは、ユース世代だけではできません。ユース世代は変化が早く、現在のメンバーが、3年後にもいることは限りません。

聖マーガレット教会のアガペー・ミールを支えてくれているのは、若い人たちの居場所を作り、育てることが、教会の大切なミッションだと信じて、食事の準備をし、若者たちを迎えるために、毎回そこにいてくれる、忠実なシニアのサポートーたちなのです。

アガペー・ミールは、洗礼を受けている人も、洗礼を受けていない人も、共に食卓を囲み、罪人の食事の中に神の国を見たイエス様に出会う、そんな礼拝です。

ぜひ聖マーガレット教会のアガペー・ミールに、参加してみてください。



教 会 談 話 室

三光教会

大久保 郁子

北関東教区と一緒になると話しが出てる今、お互いのメリットや展望があり見えず、先のみえない霞の中にいる気がします。聖職者の減少が根底にあり一緒になるしかないという現状ありきのこの話し、今更ですがもうどうすることも出来ないという気持ちを踏まえ、次回からはもう少し早めに信徒を巻込みながら進めていくのはいかがでしょうか。

真光教会

松田 正人

クリスマスは楽しい、子どものころから老境に入つた今日まで、サンタもツリーもパジェントもプレゼント交換も、キャロルも、靴下も、チキンの丸焼きも。

非業の結末を知つていてる私たちなのに、ワクワクするこの気持ち、この喜びを世界と共有するには停戦が、終戦が、豊かな食事がもたらされなければ。それは私たち人間の果たすべきミッショーン。

東京聖マリア教会

東京聖マリア教会では、2025年7月から礼拝後のプログラムとして、第1主日に聖書輪読、第2主日

に聖歌の練習をしています。聖書輪読はルツ記を読み終わり、今はヨブ記を読んでいます。聖歌の練習は、馴染みがない曲、歌う機会が少ない曲、個人の愛唱聖歌などを練習しています。どなたでも参加可能ですので、ご興味がある方は是非ご連絡下さい。

大森聖アグネス教会

田 治哉

人生は実に犠牲の連続である。何かを成し遂げるためには、いくつもの自由と快樂を捧げねばならない。畢竟、何かを選ぶということは何かを選ばないことなのだから。そしてそれは人生に限つた話でもない。

あと何年クリスマスが祝えるだろう。少なくとも10年後には「いつも通り」とはいかない。何を残して何を捨てるのか、考え始めるのに早いということはないはずだ。

聖パウロ教会

阿部 基裕

来年の創立150周年に向けたミッショントリックン探求『信徒懇談会』は7回を終えた。『教会への希望（夢）』を語り合い、当教会百年史から先人の働きを学び、信仰生活で大切にしていることや記念事業アイデアを出し合う。現在『主イエスの弟子になること（「知る」「交わる」「仕える」）』を軸に、プログラム企画・実行チー

ム立上げへと進んでいます。

目白聖公会では、コロナ禍もあり中斷していた学習支援のシプリアン塾を、豊島区の子供支援NPOと立て、6月に再開しました。今は

月1回の開講ですが、地域の小中学生を対象に自由に学び自由に遊ぶ子供たちの居場所になることをを目指しています。地域の教会の小さな働きに、主のお導きがありますよう祈りつつ。

東京諸聖徒教会

毎年、降臨節第1主日の午後、教会の玄関に大きなクリスマスツリーが飾られます。そして夕方からはライトが付き、教会の入り口を飾ります。通りから少し入つた所にある諸聖徒教会はこの時期ご近所の方々もこのツリーを楽しみにしてくださっています。これから4週間、主のご降誕を待つ、大切な時をツリーと共に過ごします。

東京聖テモテ教会

島田 明夫

東京聖テモテ教会では、花壇の一部を畑にして、作物を栽培しております。夏野菜として、トマト、キュウリ、ナスを育てましたが、7月までは順調に育つて収穫できたのです

が、その後は酷暑で立ち枯れてしましました。その後、白菜、ソラマメ、ブロッコリを栽培しております。白菜は順調に育っていたのですが、毛虫に丸裸にされてしまいました。

神田キリスト教会

八代 誠

夏の教会キャンプは猛暑のため中止し、代わりに下町グルーブの教会にもお声掛けして8月31日に納涼会を開催しました。10月5日には創立148年記念礼拝を行い、祝会の席では当教会の歴史の講演がありました。10月26日にはバザーを開催、収益は浅草聖ヨハネ教会日曜給食活動、ガザ・ウクライナ・ミャンマーの人々のためにお献げします。

月島聖公会

聖公会神学院3年の川島創士神学生が、夏休みを挟んで約半年間、実習に来られました。最初は朝のフリースペースにやつて来る元気いっぱいの子どもたちに押され気味だった川島さんも、11月にはすっかり馴染んで、子どもたちの心をつかむ素敵なお話をしてくださいました。柔らかで明るいお人柄の川島神学生の今後の活躍をお祈りしています。

浅草聖ヨハネ教会

10月26日、2回目のオープチャーチ＆ミニマルシェが開催されました。

礼拝堂では荻原司祭様のお話や楽器演奏を聴く静かな時間を過ごし、ホールと中庭では信徒手作りの焼きそば・おにぎりが販売され、ヨハネ教会以外からの出店もあり、大いに賑わいました。

これからも地域の方々との触れ合いを大切にしながら、教会活動を広げていきたいと思います。

聖救主教会 宮本 恭子

11月2日まこと大バザーが教会・キッズキッズスクール・まこと保育園・ライト学童・深川愛の園合同で実施。地域に奉仕する教会として、地域の方・各施設の利用者と卒園・退会した人々が再会交流する場になつてている。今年は、こびあクラブ・ヒューマンシールド神戸・パレスチナ子どもキャンペーン・エンチャイルド・横浜こどもホスピスプロジェクトに奉獻する予定です。

渡辺 定夫

11月には「こどもとともに守る聖餐式」として礼拝をお捧げしています。子ども祝福式を中心に挿み、もう十数年続けています。佐々木道人司

祭の司式でしたが、佐々木司祭の説教に替わるお話で「大人にもその中には子どもがあります」と話されました。参加した子ども一人一人に祝福

のお祈りをされましたが、一緒にいた80代までの年代の方々それぞれにも神さまが祝福してくださいましたことを思いました。

千住基督教會

お困りの子育て世帯への食材配布活動「フードパントリー」を毎月第2・第4日曜日に実施して、この秋で6年目に入りました。現在18世帯が登録、近隣教会からの応援員含め70名のスタッフで続けています。登

録世帯の親子が教会に親しみを持ち、安心できる場所としてひとときを笑顔で過ごしてくださることが、小さな教会への大きな恵みです。

聖ルカ礼拝堂

9月14日に洗礼式が行われ7名が新たに聖ルカ礼拝堂の靈的家族に加わりました。今年もまたクリスマスの季節です。日々患者さんや職員たちが立ち寄り座つて祈りのひと時を過ごされています。祭壇を覗き込むと祭壇の左上には羊を抱くイエス様の絵があります。どうぞ来てご覧になつてみてください。メリーカリスマス。

東京聖三一教会

11月16日(日)は、「支えあおう、つながろう」のテーマのもと、秋のバザーを行いました。お店や食べ物は少し縮小しましたが、庭で行われた

たコンサートや、礼拝堂でのパイオルガンの演奏と見学会などを通じて、訪れて下さった皆さまともに楽しいひと時を過ごせました。バザーの交わりを通して、主の平和が少しでも伝わればと願っています。

東京聖十字教会 加藤 恵子

東京聖十字教会では、アドベントの準備として信徒の方の生花店をして、米国オレゴン州から生の木のみの木を船便で取り寄せて、クリスマスリースやキャンドルアレンジ等を作成しています。本場の木のみの木は大ぶりで爽やかな香りがして皆で樂しみながら製作しています。近づくクリスマスを待ち望みながらアドベントシーズンを過ごしたいと思つております。

阿佐ヶ谷聖ペテロ教会

茂木 智 去る10月12日に「ペテロ・フェス

タ(本年よりバザー改め)」を開催しました。前後の台風の合間で好天に恵まれ、たくさんの方々と楽しい一時を過ごすことができました。

本年は阿佐ヶ谷聖ペテロ創立

100周年ということもあり、「100年の感謝」これからに向けて「」をテーマに教員老若男女一丸となつて無事に開催できることに感謝の気持ちでいっぱいです。

インマヌエル新生教会

10月26日の聖餐式後、インマヌエル・フェスタが行われました。1階のホールではミニバザーやカフェなどで交流の場を設け、2階の聖堂ではアコーディオン・コンサートと落語を披露しました。心配された雨も礼拝の終り頃には止み、天気に恵まれた中で、地域の方々と交わつて親しみ合うひとときを過ごすことができました。収益は「わかちあいマルシェ」活動のために使われます。

立教学院諸聖徒礼拝堂 菊地 雄大

11月7日、立教チャペルでの金曜夕の祈りの間に、「被造物を感じ、祈る」というテーマでチャプレン達による企画礼拝が行われました。アッセンジの聖フランシスコの「太陽の賛歌」を中心にして、彼の生きざまについても思いを馳せる良い時となりました。聖フランシスコは私の洗礼名でもあるのですが、神への従順さ、被造物への慈しみの大切さを改めて心に刻むことができました。

清瀬聖母教会

菅浪 敦 90年代、降臨節の教会、そこには多くの若者が集っていた。それは様々

な賜物との邂逅(かかご)でもあつた。13メートルに及ぶ巨大な降誕壁画を作り、聖堂に至る木々には20メートルに及

ぶ電飾、そして中央の花壇には電飾のツリーを設置、聖夜を美しく彩つた。以来30余年、壁画とツリーは設置しなくなつて久しいが、電飾は短くなつたとはいえ、今なお人々を聖堂に誘い続けている。

八王子復活教会

今年の降誕日の礼拝では、聖公会八王子幼稚園卒園児保護者の音楽グループ『ブルーミンスターーズ』と

信徒有志が、コベントリーキャロル（聖歌105番）を奉唱する企画をしました。教会と幼稚園が、共に歩むことを願い、声を重ね合わせ、クリスマスを迎えることができることに、期待でワクワクしています。よき交わりのひと時となりますよう。

聖パトリック教会

松本 利勝

クリスマスには毎年、教会にサンタがやつてきます。クリスマス祝会の最後に必ずプレゼントを持つて。子供たちは大盛り上がり。幼い子供たちは心からサンタを信じていますから瞳がキラキラです。実は一番嬉しいのは大人たちです。幼子たちのサンタを見上げるその愛らしい姿にイエス様、そして幼かつた自分自身の姿をも見ているからでしょう。

聖マルコ教会

清水 典子

今年は教会のなつめが大豊作。10

月の日曜日、なつめ収穫隊出動！通りがかった家族連れが、「何の実ですか？」と興味津々。小さいお子さんの手に実を乗つけてあげました。「毎日ここを通るのでスマホで撮つていたんですよ」と年配の男性が、実が赤く色づいたなつめの木の画像を自慢げに見せてくれました。宣教の窓口は思いがけない所で開くのでは。

小金井聖公会

アドヴェントの期節を待ち続けて、待ち続けて、いよいよクリスマスが到来する。しかし、ややもすればクリスマスには、3つの誘惑が待ち構えているかも知れない。イヴェント化、ブランド化、マイホーム化の誘惑。クリスマスを風物詩的に捉え、季節商売の附加值に利用し、仲間うちの悦楽で満足する。飼い葉桶の幼子イエスは、その誘惑を退ける。



東京タワーの麓

織りなされる祈りに加えられて

今夏の想像を絶する暑さの中「小まめな水分補給」という言葉を何度も耳目にしました。その中、冷たい一杯の水、それも掌ですくい上げて口にする湧き水には息を吹き返してくれるような力、心や魂までもが潤されるを感じます。その自然の湧き水は、チョロチョロと湧き出ている小さな泉になります。

改めて聖書の話を思い、授けられているいのちを思う時、いのちの源なる神様に出会います。そのいのちの恵みの源なる方に向かい、イエス様は「アッパ、父よ」と呼び掛けられました。当初、多くの人々は、神様に向かって幼子のような気持ちで全幅の信頼と親しみを込めて「アッパ」と呼び掛けることが出来る人など、在ってはならないとさえ思っていたことでしょう。

深い信頼を持って、神様に向かって「アッパ」と呼び掛けているイエスという方がいらっしゃる、それを目の当たりにした弟子たちも驚くことしかできなかつたことでしょう。しかし、そういうイエス様と神様との交わりの中に、弟子たちは、このイエス様こそ神様から湧き出されるいのちの水で在られるということに気付かされていきます。そして、いのちの水なるイエス様に触れることが、その源で在られる神様に触れることに通じるのだといふことも分かり始めています。

更にその折、もう一つ深く感じ取ったことは、祈りとは父なる神様と子なるイエス様とが織りなす調べであり、その調べに自分たちの捧げる願いや祈り、生きることそのものが重ね合わされているということにも気付かされていきました。

キリストの教会は、祈りの最後に「イエス様の御名によって」という言葉を付け加えてきました。それは、私たちの捧げる祈りが、神様とイエス様とが織りなされる調べに重ね合わされますようにという願いと助けを表します。私たちは一人ひとりで祈っているのではなく、常に私たちと一緒に祈ってくださるイエスという方がおられるという信仰を授かっています。

「求めなさい、そうすれば与えられる」とのイエス様の教えは、欲しいと言えば神様は何でもこちらの意の儘にくださるということではありません。イエス様が言われたことは、私たちの捧げる祈り、願いを支え助け、聖なるものとしてくださるという信仰を伝えてくださっています。

（主教 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸）